

# 大阪 PFAS 汚染と健康を考える会 市民講座 VOL1 映画上映会

## ダークウォーターズ 巨大企業が恐れた男

監督：トッド・ヘインズ  
『キャロル』『エデンより彼方に』

2019年/アメリカ/英語/126分/ドルビーデジタル/カラー/  
スコープ/原題：DARK WATERS / G / 字幕翻訳：橋本裕充  
提供：木下グループ

出演：

マーク・ラファロ  
アン・ハサウェイ  
ティム・ロビンス  
ビル・キャンプ



ヴィクター・ガーバー  
ビル・プルマン

巨大企業の隠蔽を暴いた弁護士

その実話を基に描く

衝撃の物語

大阪にも拡がる

PFAS 汚染の

源流がここに...



© 2021 STORYTELLER DISTRIBUTION CO., LLC

配給・宣伝：キノフィルムス

阪急大阪橋田駅より徒歩で5分/十三駅下車徒歩13分

第七藝術劇場  
大阪市淀川区十三本町1-7-27サンボードシティ6F  
☎06-6302-2073  
www.nanagei.com



チケット

一般 1300 円

大学生以下・障がい者 1000 円

予約は  
こちら⇒



2024年10月4～6日

(上映時間 約126分)

① 4日(金) 13:30～

終了後トーク企画(約30分)

② 5日(土) 18:30～

③ 6日(日) 18:30～

主催 / 大阪 PFAS 汚染と健康を考える会 (お問い合わせ TEL 06-6268-3970)

共催 / 東淀川 PFAS 汚染と健康を考える会, 大阪・摂津市 PFOA 汚染問題を考える会

# 無謀とも思える巨大企業との闘いに身を投じたひとりの弁護士に光をあてる。全米を震撼させた実話に基づく衝撃の物語。

## イントロダクション

2016年1月6日のニューヨーク・タイムズ紙に掲載されたその記事には、米ウェストバージニア州のコミュニティを蝕む環境汚染問題をめぐり、ひとりの弁護士が十数年にもわたって巨大企業との闘いを繰り広げてきた軌跡が綴られていた。そしてこの驚くべき記事は、マーベル・シネマティック・ユニバースのブルース・バナー／ハルク役で絶大な人気を博した実力派俳優マーク・ラファロの心を動かした。環境活動家でもあるラファロは、プロデューサーも兼任して映画化に向けて動き出した。ロブ・ピロットをスーパーヒーローでも聖人でもない生身の人間として体現し、観る者の深い共感呼び起こす。世界有数の化学企業デュポン社を敵に回したことで生じる強烈なプレッシャー、公私両面の凄まじいストレスなどの“正義の代償”を伝える一方、弱き者を救おうとする弁護士の揺るぎない信念を感動的に演じきった。人命さえ脅かす化学物質（有機フッ素化合物 PFAS）の存在が身近な恐怖として描かれ、闇の中の真実をひたむきに追求するロブの姿から目が離せない。

## ストーリー

1998年、オハイオ州の名門法律事務所働く企業弁護士ロブ・ピロットが、見知らぬ中年男から思いがけない調査依頼を受ける。ウェストバージニア州パーカーズバーグで農場を営むその男、ウィルバー・テナントは、大手化学メーカー、デュポン社の工場からの廃棄物によって土地を汚され、190頭もの牛を病死させられたというのだ。さしたる確信もなく、廃棄物に関する資料開示を裁判所に求めたロブは、“PFOA”という謎めいたワードを調べたことをきっかけに、事態の深刻さに気づき始める。デュポンは発ガン性のある有害物質の危険性を40年間も隠蔽し、その物質を大気中や土壤に垂れ流してきたのだ。やがてロブは7万人の住民を原告団とする一大集団訴訟に踏みきる。しかし強大な権力と資金力を誇る巨大企業との法廷闘争は、真実を追い求めるロブを窮地に陥れていくのだった……。

## 開催にあたり

PFAS 汚染が伝えられ、国や行政が実態解明に後ろ向きな姿勢を示す中、私たちは昨年9～12月、住民自身の手による1190人の血液検査を実施し、ダイキン工業淀川製作所周辺のみならず大阪の各地で、人体にも少なくない影響を及ぼしている実態を明らかにしてきました。

マスコミの報道もあり、住民の関心は高まってきていますが、身近に広がるPFAS汚染の実態はまだ知られていません。そこで、2000年代初頭に米国でデュポンを相手にたたかい、連邦政府や国を動かし厳しい環境基準、健康管理基準を定めさせるキッカケとなった映画「ダーク・ウォーターズ」の上映会を企画しました。

多くの方に鑑賞していただき、PFAS汚染と健康を考える機会となればと思います。